科目名	国際発達ケア特論　Theory on Global Care for Development
科目番号	01EA229
授業形態	講義・演習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春AB学期　受講生との協議により定める
実施場所	共同利用棟B103
単位数	2単位
担当教員名	安梅勅江　Tokie Anme
ティーチングフェロー（TF）・ ティーチングアシスタント（TA）	なし TA配置あり（2人）
オフィスアワー等	4B棟508 オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること。 anmet@md.stukuba.ac.jp
授業の到達目標 （学習成果）	(1)自らの研究の目的、方法、結果とその意義、今後行うべき研究について発表できる。□ (2)自らの研究の、当該領域の世界の研究における位置と独創性について説明できる。□ (3)自らの発表内容に対する質問とコメントを理解し、討論の内容を以後の研究の質の向上に反映できる。□ (4)他の学生の発表内容を理解し、その意義と欠点を理解し、その向上のためになる質問や討論をする。□ (5)保健医療福祉に関する法律と研究方法を理解し、適切な実践研究を企画・申請・実施できる。□ (6)研究に関する規則と倫理学的問題点を踏まえ、適切な実践研究を企画・申請・実施できる。□ (7)世界の様々な地域で生活している人々の健康実態を理解し、ケアに必要な理論と技術について説明できる。□
他の授業科目との関連	国際看護学　国際発達ケア演習
履修条件	なし
授業概要	国際的な視野を持ち、世界のさまざまな地域で生活する人びとへの発達ケアに必要な理論や技術について、公衆衛生学や保健医療に関する最新の研究成果の発表を題材とし、研究内容に関する講義と討論を行う。
キーワード	国際　生涯発達　ケア
授業計画	1国際発達ケア特論のねらいとすすめ方□ 2エンパワメントに基づくケアの対象と方法□ 3エンパワメントに関する量的研究法□ 4エンパワメントに関する質的研究法□ 5エンパワメント実践技術（1）□ 6エンパワメント実践技術（2）□ 7国際発達ケアの最新動向とヘルスプロモーション□ 8国際発達ケア理論□ 9ヘルスケアシステム□ 10国際発達ケアの事例紹介（1）□ 11国際発達ケアの事例紹介（2）□ 12国際発達ケアの事例紹介（3）□ 13国際発達ケアの事例紹介（4）□ 14国際発達ケアの事例紹介（5）□ 15国際発達ケアの事例紹介（6）□ 16国際発達ケアの事例紹介（7）□ 17国際発達ケアの事例紹介（8）□ 18疫学研究デザイン□ 19研究プロトコール作成（1）□ 20研究プロトコール作成（2）□

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義（50%）と演習（50%）を併用する。 指定した教科書の「いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学」を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 復習は必ず行うこと。また、宿題を課す。
成績評価方法	レポート課題：国際発達ケア研究の計画 評価項目 （1）問題の設定 A～A+：背景がわかりやすく述べられ、問題設定が既存の研究レビューに基づいて明確にされている B：背景の説明と問題設定が適切であり、既存研究のレビューがなされている C：背景と設定が説明されている D：背景、設定のいずれかが説明されていない （2）論旨の展開 A～A+：論旨の組立て、展開に創意工夫がみられる B：論旨の展開が明確である C：論旨は理解できるレベルにある D：論旨が不明確である （3）結論の導き方 A～A+：独創性が見られ、結論には説得力がある B：明確な結論を導いている C：論旨の展開と結論の間に矛盾はない D：結論は唐突である ・Aのうち特に優れたものをA+とする ・それぞれC以上を満たすことで合格とする ・最低の評価（評点）を最終評点とする。たとえば、Aが2つ、Cが1つのとき、最終評価はCとする、など
教材・参考文献・配布資料等	いのちの輝きに寄り添うエンパワメント科学、安梅勅江、北王路書房、2016年
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	授業中の活発な参加を期待する。